

市民協働によるこれからの公共施設に向けて

～公共施設の将来像～

2022(令和4)年4月

宇治市

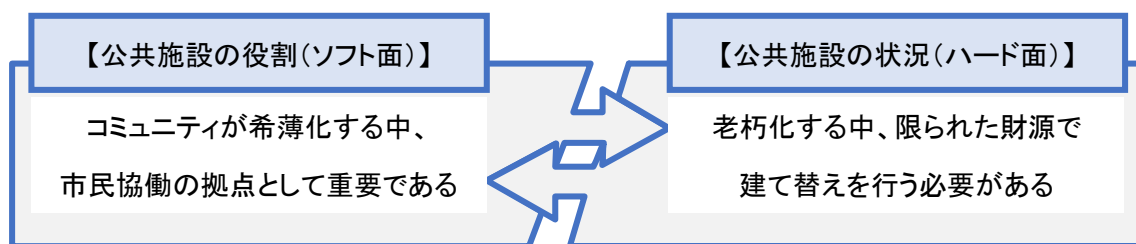
1. 策定の背景

人口減少・少子高齢化などの社会構造の変化、個人の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、地域コミュニティの希薄化が進行しています。複雑化・複合化する地域課題に対応するためには、市民をはじめ、関係団体・NPO・大学など多様な主体との市民協働によるまちづくりが重要となり、その拠点として公共施設は大きな役割を果たすと考えられます。

一方、宇治市における多くの公共施設は、高度経済成長の中のベッドタウンとして、人口の増加や市民ニーズの拡大にあわせて、1985(昭和60)年頃までにその多くを整備しており、今後20～30年間に集中して改修・更新時期を迎えることから、人口減少・少子高齢化の進行等により、今後も財政状況は厳しい見通しの中で、老朽化等の対策にかかる費用が大きな課題となっています。

こうした背景から「公共施設の将来像」では、限られた財源の中、まちづくりの重要な役割を担う公共施設が、今後どのような形を目指していくべきであるか、市の方向性を示します。

【公共施設の役割・状況の関係性】



2. 公共施設の状況

公共施設の状況について、以下にまとめました。こうした状況を踏まえると、既存施設を単にそのまま改修・更新するだけではなく、変わりゆく社会ニーズを踏まえ、公共施設がこれからのまちづくりにおいて求められる役割を見定めたくうえで、公共施設のあり方を検討する必要があります。

【公共施設の状況】

老朽化	・築30年以上経過している施設が約60%を占めるなど、施設の老朽化が進行しており、今後、更新・改修等の対策に多額の経費を要する
利用状況	・貸しスペースの稼働率が低く、利用者が固定的になっている ・行政サービスや市民活動のニーズが多様化してきている
施設配置	・一施設一機能の小規模施設が多数存在している ・同じ機能を有する施設が近接するなど配置バランスに偏りがある

【主な施設類型別公共施設一覧】

施設類型	主な機能	主な施設	
市民交流・ 学び施設	集会施設	交流	集会所、コミュニティセンターなど
	文化施設	文化・芸術	文化センター
	その他	交流・学び	生涯学習センター、公民館 図書館、青少年センターなど
生きがい・ 健康づくり施設	レクリエーション・観光 施設	生きがい 健康づくり	植物公園、総合野外活動センター 茶室対鳳庵など
	スポーツ施設		黄檗公園、西宇治公園など
子育て・子育て 支援施設	学校教育	学校教育	小・中学校
	就学前	子育て支援	保育所・幼稚園など
保健・福祉施設	高齢者福祉	高齢者支援	地域福祉センター、デイホーム
	保健・福祉	福祉・安全安心	総合福祉会館 保健・消防センター
産業系施設	産業施設	産業	産業会館、産業振興センターなど
行政系施設	庁舎	行政サービス	市庁舎
	消防施設	消防・救急	消防署など
市営住宅	市営住宅	住宅	市営住宅

3. 公共施設の課題と解決に向けた取組

人口減少や少子高齢化、厳しい財政状況、社会情勢の変化が起こる中、時代に応じた新たな公共施設に再構築し、魅力あるまちづくりの実現を目指していきます。

現在、本市が抱える公共施設の課題と、それらの解決に向けた取組、目指す公共施設について以下に示します。

■ 公共施設の課題

- ✓ 整備時と比べ、行政サービスの求められる質・量・内容が変化している
- ✓ 貸しスペースなどの稼働率が低い状況にあるが、市民活動の場を求める声があり、十分に施設が認知されていない
- ✓ 少子高齢化が進む中で、老朽化や財政的な観点から、全ての公共施設を維持することは困難である

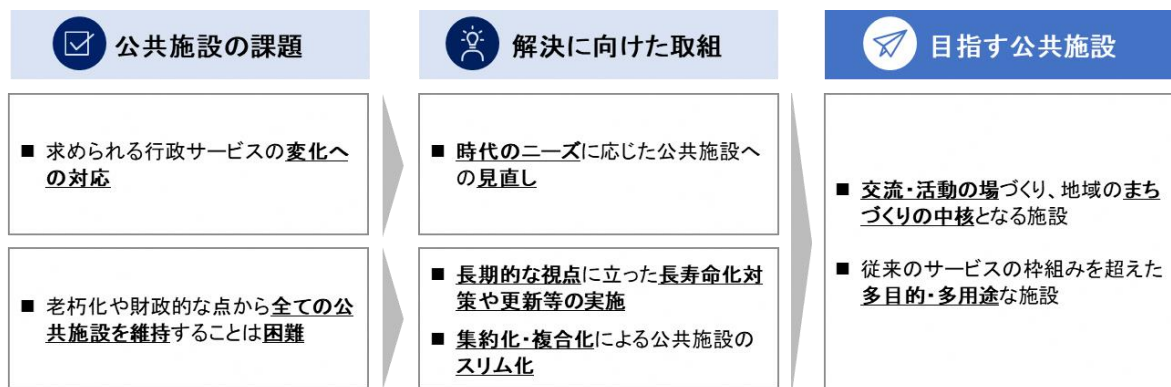
■ 課題解決に向けた取組

- ✓ 時代の流れに伴う社会情勢の変化により、新たな行政サービスの需要が生じており、これからの時代に応じた公共施設へと見直しを行う
- ✓ 将来のまちづくりも見据えた新たな付加価値の創出を図る
- ✓ 次世代に過大な負担を残さないためにも、長期的な視点に立った長寿命化対策や更新等を進めつつ、集約化・複合化といった取組を進め、公共施設総量の適正化を図る

■ 目指す公共施設

- ✓ 世代を超えて多くの市民が集い、学び、親しまれる交流・活動の場づくり、地域のまちづくりの中核となる施設
- ✓ 従来のサービスの枠組みを超えた多目的・多用途な施設

【課題解決に向けた方向性】



4. 取組の進め方

(1) 取組手法

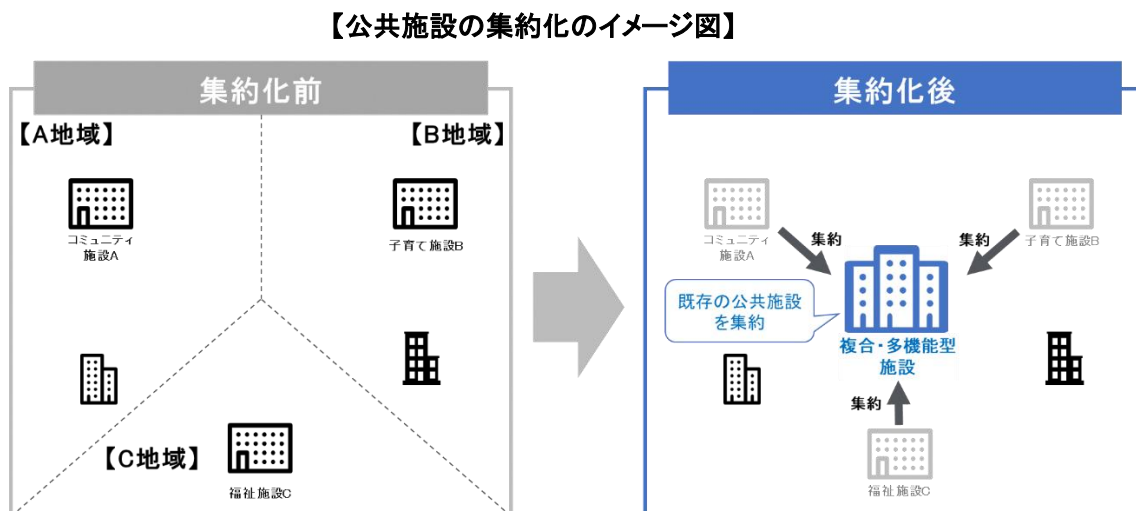
これからの公共施設の方向性を踏まえ、将来、整備するにあたっては、多数点在する小規模施設を集約化・複合化することにより、市民サービスの利便性向上や地域の活性化とともに、公共施設のスリム化と効率的な施設運営の実現を図ります。

① 集約化

- ✓ 公共施設の更新にあわせて、施設の機能の集約化を図ります
- ✓ 将来を見据え、都市機能のあり方、地域の人口バランス、市民団体の活動、地域コミュニティの単位等を考慮し、集約範囲の設定を行い、効果的な施設配置を進めます

【取組の具体的な進め方】

- ・ 地域ごとの特性を踏まえ、中学校区や日常生活圏域などを集約範囲として、市民協働の推進、地域コミュニティの活性化を図ります
- ・ 既存の公共施設の状況や、地域の特性を踏まえて、エリアに点在する複数の施設をまとめ、維持・管理コストの縮減を図ります



② 複合・多機能化

- ✓ 公共施設は、これまで目的別に施設を整備し、運営を行ってきたことから、利用者が限定、固定的になる傾向があります。今後の複合・多機能型施設においては、特定の目的に捉われず、多様性・柔軟性がある、多くの人に利用され、市民の活動につながるような場を目指します。多世代が集えて、人と人とのつながりを感じられ、子どもから高齢者までの幅広い世代が親しみ、交流できる拠点に向けて、次の方向性で複合化を行います。

【取組の具体的な方向性】

（サービス面）

異なる施設で提供されているサービスを組み合わせることによって、行政サービスの利便性を向上させ、施策間の連携強化や有機的なサービスの提供を目指します

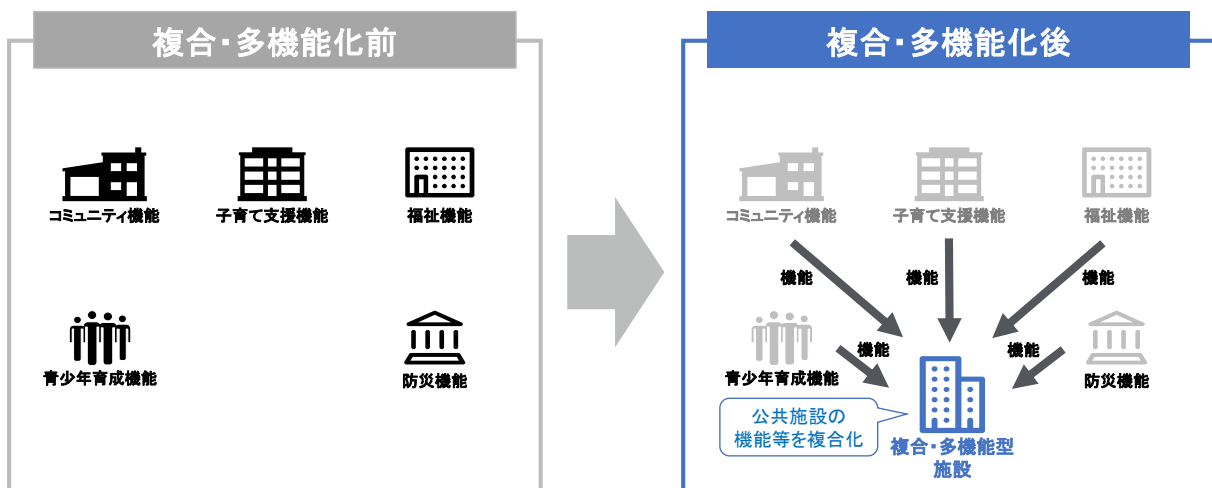
（施設運用面）

特定の目的に捉われないボーダーレスな施設運用を行い、多くの世代に利用され、活気のある状態をつくるとともに、多目的に利用できるスペースや共用の空間を通じて、幅広い利用者が交流できる場を整備します

（維持管理面）

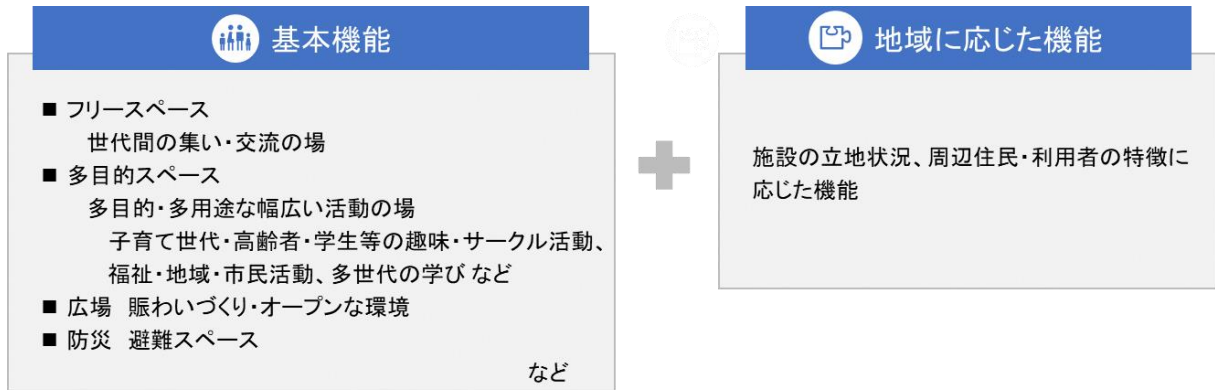
複数の施設をまとめ、共用部分の効率化など、維持・管理コストの縮減を図ります

【複合・多機能化イメージ図】

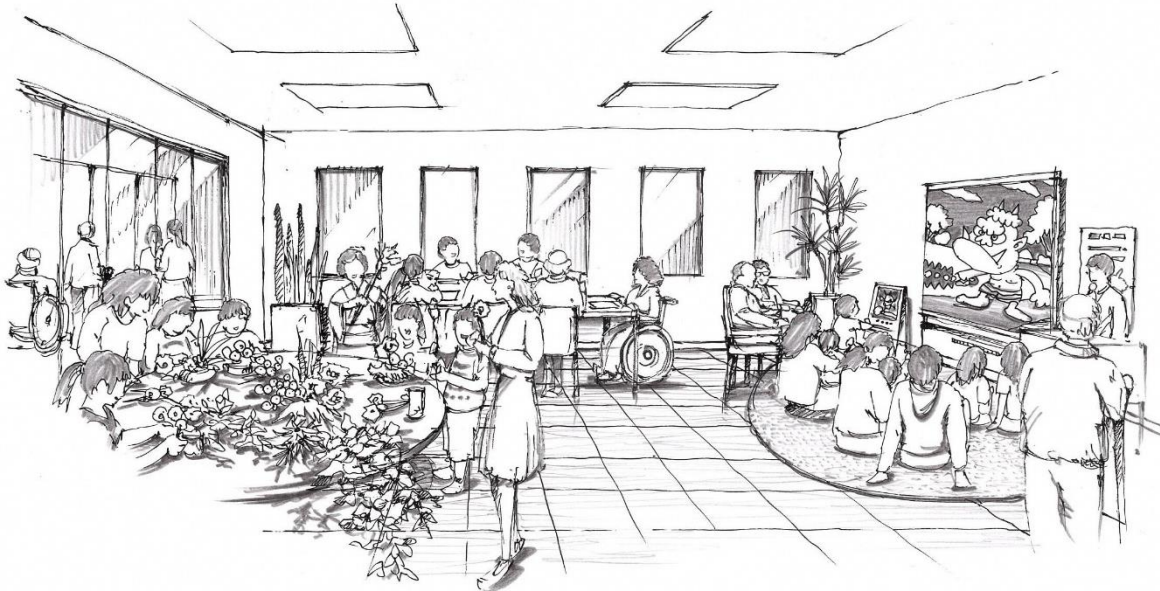


複合・多機能化による相乗効果や付加価値を創出し、「サービスの質の向上」と「地域の活性化」を目指す。

【複合多機能型施設の機能例】



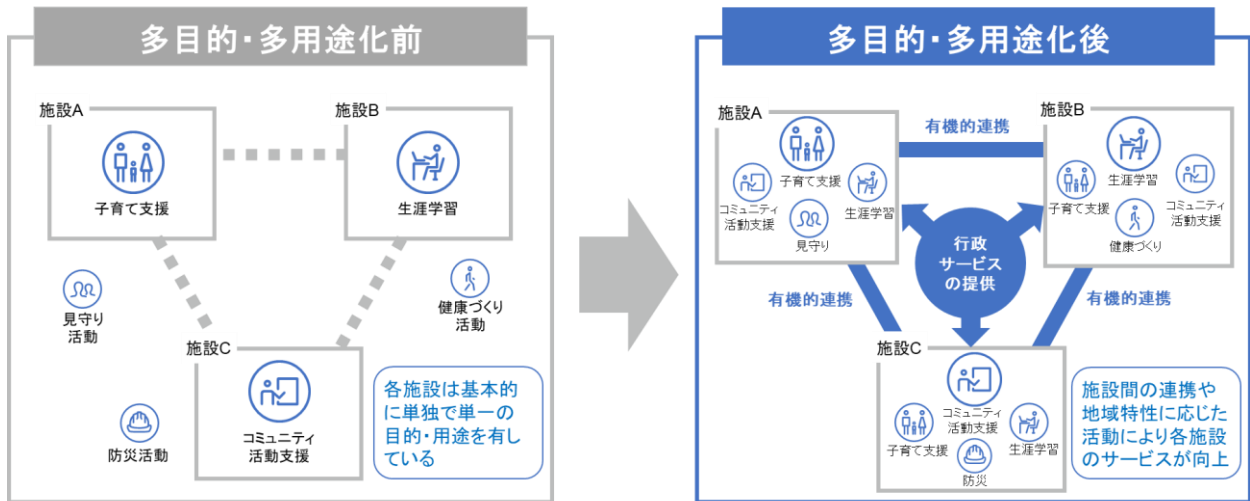
【多目的スペースのイメージ】



③ 既存公共施設の多目的・多用途化

- ✓ 各スペースの稼働率を高め、空間的・時間的な余裕部分などを最大限に活用するため、これまでの目的に応じた枠組みに捉わられることなく、幅広い活動に利用できるよう見直します
- ✓ 公共施設の多目的・多用途化を通じた、市民の学びや健康づくり、文化活動などをより身近に行える場の創出に加え、施設間の連携を深め、これらの活動を促進する仕組みづくりに取り組みます
- ✓ 既存の公共施設を維持する場合は、改修にあわせて、幅広い活動に利用できるよう、リニューアルを行います

【多目的・多用途化イメージ図】



(2) 取組のロードマップ

公共施設により、老朽化の度合いや利用状況が異なります。それぞれの状況に応じて、中短期的な取組、長期的な取組を行います。

① 中短期的取組

- ✓ 既存施設を幅広い活動に利用できるよう、施設の機能・枠組みの見直しを行います
- ✓ 既存の公共施設を維持する場合は、改修にあわせて、幅広い活動に利用できるよう、リニューアルを行います
- ✓ また、将来にわたって必要な公共施設を維持し、安定的な市民サービスを提供するため、受益者負担の適正化を図ります

② 長期的取組

- ✓ 学校施設等の再編や大規模施設など公共施設の更新にあわせて、複合・多機能型施設の整備を行います
- ✓ 中宇治地域において、公共施設の将来像の先行例として、複合・多機能型施設の整備を行い、その機能などを評価する中で、他地域への展開に繋がります

【取組のロードマップ】



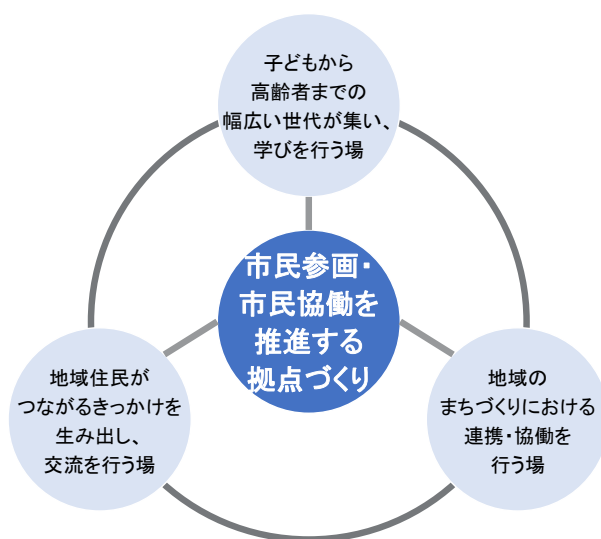
5. 公共施設の将来像

地域社会においては、ライフスタイルや価値観の多様化により、コミュニティの希薄化が進行しているため、地域の絆を取り戻し、市民協働で地域の課題に対応することが重要となっています。

これからの公共施設が、世代や目的に捉われない気軽に立ち寄れる開かれた場、立ち寄りたくなる場であって、自然と人が集い、交流が生まれるような施設になることで、地域の拠点づくりを目指します。

このビジョンをもとに今後、具体化に向けて、幅広い世代のご意見を伺い、公共施設の将来像について市民の皆様と共に創り上げ、豊かな地域社会の実現と魅力あるまちづくりを進めます。

【公共施設の将来像】



【将来像のイメージ】

